

# 栃木県埋蔵文化財センターだより

C O N T E N T S

発行 平成27年3月〇〇日  
栃木県教育委員会  
宇都宮市埜田1-1-20  
TEL 028-623-3425  
編集 (公財)とちぎ未来づくり財団  
埋蔵文化財センター  
下野市紫474  
TEL 0285-44-8441  
FAX 0285-44-8445  
URL <http://www.maibun.or.jp>

2015  
3月  
やま  
かいで



- 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から  
黒袴台遺跡(佐野市) 愛宕塚古墳(下野市)  
岩舟台遺跡(大田原市) 雀宮宿跡(宇都宮市)  
横倉遺跡・横倉戸館古墳群(小山市)
- 市町教育委員会が実施した発掘調査から  
史跡車塚古墳(壬生町) 牧之内古墳 琵琶塚古墳(小山市)
- 特集 土偶を作る
- 埋蔵文化財センター普及事業の紹介  
ヒューマンフェスタ2014での展示  
石器づくり講座

## 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から

### 1. 黒袴台遺跡(佐野市) -横穴式石室を持つ古墳時代後期の円墳-

佐野市黒袴台遺跡は、三轟山とかつて存在した越名沼の間の台地上にあります。平成9・10年に遺跡南部の発掘調査が行われ、平成25年から北部の発掘調査を実施しています。縄文時代、古墳時代、平安時代、室町時代の遺構、遺物が発見されています。古墳時代には前期の方形の墓、中期・後期のムラ、後期・終末期の古墳が相次いで作られた様子が分かりました。今回の調査では、方墳1基、横穴式石室を持つ古墳7基が新たに発見されました。そのうち1基には横穴式石室の前に石組みの施設が発見されました。このような施設は前庭部(ぜんていぶ)と呼ばれるもので、横穴式石室に遺体を入れる際に儀礼を行う場として作られたと考えられます。群馬県では多く認められますが、栃木県では少なく、群馬県の影響を示す貴重な例と言えます。



黒袴台遺跡の位置

中世の墓として、たくさんの穴が見つかりました。中には人骨が発見された穴もあります。墓石としては五輪塔の部品や板碑が発見されましたが、本来の立てた状態ではなく、いずれも埋まった状態で出土しました。板碑には永正十八年八月と刻まれていました。永正18年は、西暦1521年、戦国時代のはじめ頃にあたります。黒袴台遺跡周辺は佐野氏が治めていたと考えられます。この頃は古河公方と関東管領が争っており、関東地方も戦国の乱世の様相を呈してきていました。年号が分かるものが発掘で発見されることは、きわめてまれで、今後、栃木県の中世墓地研究の基準になる資料と思われる。



前庭部のある横穴式石室 (SZ-094)

写真上の石積み細かい部分が石室、写真下の横長の石積み部分が前庭部



SK-195 から出土した板碑

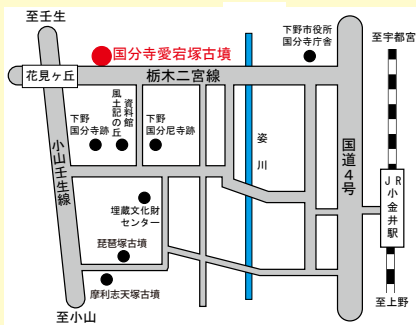
中央には蓮座に載った仏・菩薩を表す梵字とその下の花瓶、右側に「永正十八年」、左側に「八月日」の銘文がある。日には入れられないことが多い。

あたごづか

## 2. 愛宕塚古墳（下野市）- 須恵器を並べた古墳 -

壬生・国分寺周辺の地域には、5世紀末から7世紀まで大型の古墳が集中しています。愛宕塚古墳は、古墳時代後期に造られた有力者の墓で、県の史跡に指定されています。これまで発掘調査が行われたことがなく、確認調査を実施することになりました。

古墳の形は前方後円墳で、途中に平坦面を設け、二段に造られています。二段に造る古墳は栃木県南部に特徴的に見られます。しかし、下段と上段が同じ形ではなく、下段では括れがなくゆるやかですが、上段は明瞭に括れを造っています。このような古墳は先行する吾妻古墳にみられ、その特徴を継承しています。古墳の上と周辺では高さ1mにも及ぶ須恵器の甕が小さく割れて出土しました。古墳時代後期には古墳に埴輪を立てていましたが、この古墳は埴輪を立てることを終えた後で、須恵器甕を置き始めた頃の古墳です。



国分寺愛宕塚古墳の位置



調査状況（南から）



須恵器の出土状況

## 3. 岩舟台遺跡（大田原市）- 縄文時代～古墳時代まで盛りだくさん！ -

岩舟台遺跡は、那珂川と岩舟沢との扇状地につくられた縄文時代中期～後期の集落跡で、大田原市の指定文化財です。集落の中心は、調査区北側にある湯津上小学校付近とみられ、今回の調査では集落の貯蔵エリアとみられる土坑群を確認しました。隙間なく密集して掘られた100基を上回る土坑のうち、約45基は袋状土坑で、底形2.0m前後の大型のものが約20基、底形1.0m前後のものが約25基あります。袋状土坑の中には、完形の土器が出土するものや、埋没する過程で入り込んだと思われる土器片や石皿・磨石などの石器類、大きな河原石が多量に出土するものがありました。中でも、小型の白い石棒と赤色の小礫2個が並んで出土した袋状土坑は、縄文時代の人々の心情が湧き出すようで印象的でした。この他、調査区内からは岩舟台古墳群を形成する円墳5基を確認しました。割竹形木棺とみられる埋葬部からは、木製の<sup>さや</sup>鞘が残る直刀と10本ほどを束ねた鉄鏃が出土しました。



岩舟台遺跡の位置



直刀と鉄鏃の出土状況



袋状土坑から出土した石棒

## 4. 雀宮宿跡（宇都宮市） --

雀宮宿跡は、宇都宮市雀宮地区の JR 雀宮駅西口国道 4 号沿いに所在します。今回は、国土交通省関東地方整備局による宇都宮雀宮地区国道 4 号電線共同溝事業に伴い、平成 26 年 7 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで発掘調査を実施しました。調査範囲が側溝部に限定されているため狭い調査区ではありましたが、近世の遺構や遺物が見つかりました。

雀宮宿は江戸時代に整備された五街道のひとつである日光道中の 16 番目の宿場です。天保 14 年（1843）の調査結果をもとに幕府が編纂した『宿村大概帳』によると、町並みの長さ 5 町 20 間（約 581m）、本陣 1 軒、脇本陣 1 軒、問屋場 2 軒、旅籠 38 軒、家 72 軒、宿内人口 268 人と伝えられています。また、同年の将軍家日光社参の行程を描いた『日光道中分間延絵図』によりそうした様子をうかがい知ることができます。今回の調査では、近世の陶磁器や古銭などが出土しました。



雀宮宿跡の位置



作業風景



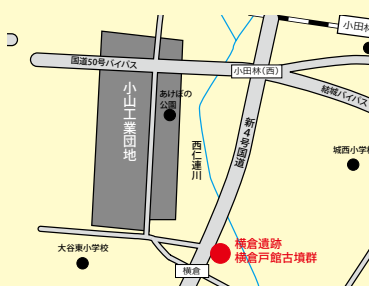
調査範囲

## 5. 横倉遺跡・横倉戸館古墳群（小山市） --

横倉遺跡・横倉戸館古墳群は、小山市の南東、西仁連川に面する台地上にあります。横倉戸館古墳群は、7 基の古墳が現状で高まりを確認でき、うち 6 基が市の指定史跡として保存されています。横倉遺跡は過去に新 4 号国道改築に伴う調査で、中世の集落跡が既に確認されています。平成 25 年度の県道整備に伴う調査では、縄文時代～近世に至る多くの遺構・遺物が見つかりました。

平成 26 年 9 月には、県道の設計変更に伴う調査を行いました。確認された遺構のうち、縄文時代後期の住居跡 1 軒、古墳時代前期の方墳 1 基、中期の円墳 1 基、地下式坑 2 基は平成 25 年度に調査した遺構の続き部分です。

古墳前期の方墳周溝は、狭い幅の調査でしたが、埋土の上の方からまとまって土器が出土しました。その後の整理で接合したところ、ほぼ完全な形の壺形土器に復元できました。平成 25 年度に調査した古墳周溝部分から出土した土器群と同じく古墳時代はじめの頃のものです。小山市域における古墳時代のはじまりを考える上で貴重な成果が得られたと言えます。



横倉戸館古墳群の位置



調査状況



周溝から出土した須恵器

くるまづか  
6. 史跡車塚古墳（壬生町）

—多くの甕で飾られた古墳—

車塚古墳は黒川東岸の台地上に築かれた円墳です。墳丘の直径は84mあり、古墳時代終末期においては、国内最大級の古墳と考えられています。周辺には前方後円墳の壬生愛宕塚古墳と牛塚古墳があり、現在では壬生愛宕塚古墳（6世紀後半）、牛塚古墳（6世紀末から7世紀初頭）、そして車塚古墳（7世紀前半）と三代にわたる権力者の墓が造られたと考えられています。

車塚古墳の発掘調査は、平成26年度から保存管理計画書を策定するための基礎資料を得る目的で開始されました。初年度は、①二重目の周溝が全周するのか。②墳丘を覆っている葺石が残っているのか。③石室前面に見られる造り出し部が古墳に伴うのか。以上の三点を確認するための発掘調査を9月から行いました。

調査の結果、周堤帯の外側には幅6m、深さ約1mの周溝が全周することを確認しました。葺石は墳丘第一段の斜面中ほどから墳頂部の平坦面まで覆われていることを確認しました。墳頂部などの平坦面の葺石は、良好な状態で残っていましたが、斜面部の多くの葺石は崩落していることがわかりました。また墳丘の第三段の斜面の葺石下には、1mを超える厚さで砂利層が盛られ、さらにその下から石積みが確認されました。

造り出し部については、墳丘の崩落土の流れ込みとの結果が得られました。

また今年度の成果としては、墳頂部と墳丘第二段平坦面に並べられていた須恵器の甕の位置を確認できたこと、そして墳丘斜面上を覆う葺石の下から、墳丘を強固にするために盛られたと考えられる厚さ1m程の砂利層が確認されたことがあげられます。来年度は石室の全容を確認する調査を実施する予定です。

壬生町教育委員会



史跡車塚古墳群の位置



空から見た史跡車塚古墳



墳丘葺石の発掘



二重目周濠完掘



墳頂部須恵器



墳頂部葺石発掘

## 7. 牧之内古墳（小山市）<sup>まきのうち</sup> –石室と墓道を発見–

間々田牧ノ内遺跡は、思川東岸の台地上に所在します。調査区は、平成 21 年度に発掘調査を行った 62 号墳の西側の隣接地で、調査対象面積は 999 m<sup>2</sup>となります。

今回の発掘調査では、古墳時代後期（6 世紀後半）の 62 号墳の周溝と石室の調査を行いました。62 号墳は、横穴式石室を備えた円墳です。この古墳は耕作地にあったため、石室の大半は失われていましたが、鏡石が内側に倒れた状態で確認されました。石室内からはガラス小玉や鉄鏟が出土しました。墓道からは、崩落した天井石のほか銅釧くしろと鉄釘が出土しています。

小山市教育委員会（0282-22-9668）



牧之内古墳の位置



調査区遠景（南から）



横穴式石室（62 号墳）全景

## 8. 琵琶塚古墳（小山市）<sup>びわづか</sup> –墳丘をめぐる埴輪列を確認–<sup>はにわれつ</sup>

琵琶塚古墳は、思川と姿川に挟まれた台地上に築かれた前方後円墳で、その規模の大きさから下毛野の首長墓と考えられています。国史跡整備事業に先立ち、古墳の現況調査と遺構確認のため、平成 25 年年度より実施しています。

本年度は、墳丘をはじめ、古墳をめぐる内堀や中堤、外堀などを調査しました。前方部では、第一段の平坦面に埴輪列を調査しました後円部でも第一段に埴輪列を確認しています。昨年度くびれ部でも埴輪列がめぐることから、古墳全体に埴輪がめぐらされていた様子がわかってきました。この埴輪の中には、朝顔型埴輪が含まれており、円筒埴輪を主に数本おきに朝顔型埴輪をたて古墳を飾っていたようです。また、後円部でも、第二段テラス上にも埴輪列が確認されています。

小山市教育委員会（0282-22-9668）



琵琶塚古墳の位置



発掘された埴輪列

# 特集 土偶を作る

土偶は日本列島の  
な用途は不明です  
と考えられていま

見本はこの土偶



ミミズク型 土偶

(12.8cm)

栃木市 後藤遺跡出土  
縄文時代晩期(約 3,200 年前)

## ～ミミズク土偶の作り方～

縄文時代後期から晩期に関東地方を中心に分布する土偶です。丸い顔面に、ボタンの様な目と口を付ける独特の形が、鳥のミミズクに似ているため、明治時代の考古学者が名付けました。



○右手の先が少し外を向くようにして、胴体はほぼ完成。

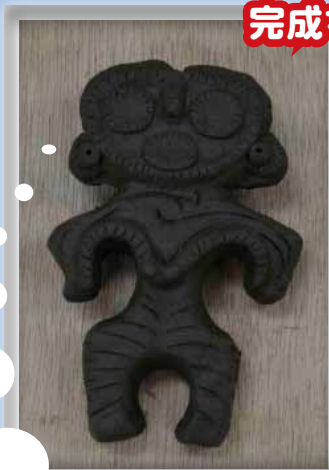


○腕は肘から下をくの字に曲げたような形にします。



○手びねりで胴体(足)をつくります。足を開いて踏ん張ったような形です。

**完成です!**



### 土偶づくりのポイント

体ははじめは板に置いて作れますが髪や胸をつけたあとは、それが歪まないよう注意が必要です。部位を貼り付けるときには、少量の水をつけしっかりと押しつけます。



○別につくった楕円形の平べったい頭部を取り付けます。



○頭部の上半分に髪の毛のような突起を貼り付けます。



○頭部下半分に半円形の「耳」をつけ、さらに「耳飾り」を貼り付けます。



○細い紐で輪郭を表したのち、やや高い鼻、丸い目の順に付けます。

○腕の下側のラインに沿って、M字形の太めの紐を○より中央部に胸を付けます。



○後頭部には反り返ったような突起を付けます。



○輪郭、鼻、目、口、耳、腕などにキザミ目を入れます。



○表、裏両面にへら状の工具で渦巻き文などの文様をつける。



○キザミ目は頭部の突起にもつけます。

スタ

○つくり出そう  
ツに応じて粘土

縄文時代に固有の“ヒト形の土製品”（ヒトの形をした土の焼き物）です。具体的には、大半が割れていることから、儀式の道具として使われ、儀式の後に破壊されたと考えられます。殆どが女性像であるため、女神、シャーマン（巫女）を表したとの説もあります。

## 見本はこの土偶

### うずくまる土偶

(8.2cm)

青森県 八戸市 風張遺跡出土  
縄文時代後期（約 3,300 年前）

○右腕を胸の前で曲げ、膝の上に置く。左腕は下から抱え上げるように曲げます。

頭部は半球形、顔面は平らです。



○少し前かがみになるように頭を取り付けます。



○つなぎ目はしっかりとなで付けます。



○棒状の眉、やや高い鼻、米粒のような目・口を貼り付けます。

## ～うずくまる土偶の作り方～

膝を折り曲げてうずくまり、右腕を左腕で抱えるように組んだ形の土偶は、他の遺跡からも出土しています。縄文時代のヒトに共通するポーズと考えられます。



○手足は太さ 1.5 ~ 2cm ほどの粘土棒で作ります。  
バイオリン型につくった胴体に腕をとりつけ胸を○より付けます。



○強く折り曲げた足を胴体に貼り付け、しっかりとつなげます。



**完成です!**

**土偶づくりのポイント**  
腕や足は長めに作り、折り曲げながら、余分を切り取るとよいでしょう。



とする土偶のパーツを取り分けます。



○縄をすり消し、線で区画します。文様のないところをミガキます。



○頭、背中、足、腕に縄文を付けます。



○目、口、耳などを工具で押しつけ表情をつけます。顔の周囲にキザミをつけます。



○細い縦線の下端に鳥の羽を押し付け、円形の文様を付けます。



○頭部は横から細い棒を刺し、穴をあけます。

## 埋蔵文化財センター普及事業の紹介

### ヒューマンフェスタ 2014in 鹿沼での展示



会場の入り口

「笑顔がつなぐ明日へのかけはし」をメインテーマとする人権意識の普及高揚の場「ヒューマンフェスタ」で、平成26年11月15日（土）に展示ブースを設けました。会場の鹿沼市総合体育館フォレストアリーナ周辺には、発掘調査をした稲荷塚遺跡、西山遺跡および鹿沼流通業務団地内遺跡があり、そこから出土した土器を時代順に展示しました。当日は地元の方を中心に90の方が見学されました。



会場の様子と展示した土器



土器の解説



「ナイチュウ」も見学してくれました

### 石器づくり講座

平成27年1月31日（土）に宇都宮海星女学院中学校で石器づくり講座を行いました。まず、講師が、黒曜石から鹿角のハンマーで薄い破片を剥ぎ取ります。この破片に、中学生が鹿の角の先端で細かな刃を付け、旧石器時代の石槍やナイフ形石器などを作りました。ゴーグルや手袋をして、けが防止につとめました。



講師による実演・指導



実際に割ってみると難しい……



ナイフの形に  
なったかな？

思った通りに石が割れずに苦労していましたが、中にはコツをつかんだ生徒もいました。